

日精ピアール 祈りの短冊用紙を提供

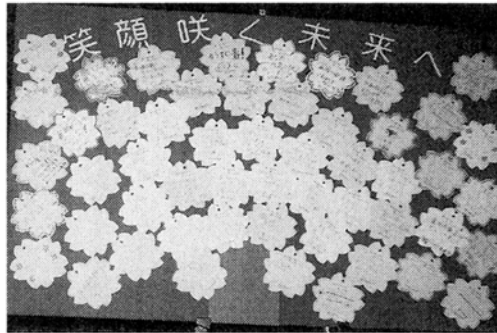
3月11日、福島県郡山市の結婚式場で富岡町の東日本大震災追悼式が行われた。富岡町は夜の森をはじめ桜の名所として知られる。追悼式では来場者に桜型の短冊が配られ、それぞれが願いを記して会場に飾り付けた。

短冊900枚を無償で提供したのは、株式会社日精ピアール（中村慎一郎社長、東京都千代田区）。同社は東日本大震



桜型の短冊にさまざまな復興への願いが綴られ満開となった（上は中村社長）

福島・富岡町に桜咲く



に託し、追悼演奏や朗読などが行われた。

日精ピアールは高精細印刷技術を活かしたアート作品の作製を得意としており、複製画やカレンダーを避難所等に寄贈してきた。今年2月には富岡町生活復興支援センター「おだがいさまセンター」でクラシックギターコンサートを行うなど、被災者の心に沿った支援を続けている。今回もスペインの印象画家トレンツ・リヤドの複製画を同センターに寄贈した。

災の被災者に対して、印刷会社ならではの支援を継続的に行っている。短冊は淡い桜色を3色用意し、ボードや冬木に吊るされて満開の桜を表現した。追悼式は犠牲者への鎮魂と未来への希望を桜

ていきたい」と話した。